

ウツセミガイ *Akera soluta* (Gmelin)

【選定理由】

本種は内湾から外洋にかけての藻場、アマモ場に生息する。内湾では潮下帯の砂泥底、アマモ場に生息し、戦前は比較的普通に見られたとされているが、近年全国的に産出の報告はない(和田・他, 1996)。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。またアマモ場も非常に減少している。本種については、標本調査の結果、1978年に幡豆郡一色町沖のアマモ場より採集された標本が見いだされたのみで、近年の調査では死殻さえ確認されていない(木村, 1996; 木村, 2000)。和田・他(1996)では絶滅寸前にランクされている。引き続き、絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



幡豆郡一色町沖, 1978年, 採集者不詳

【形態】

殻長約 40 mm 程度の樽型の貝で、殻は薄く脆い。縫合部は切れ込み、蓋はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では現在全く生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本、インド洋、オーストラリア。房総半島以南に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在生息は確認できない。死殻でさえ採集されない。危機的な生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20. 名古屋貝類談話会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)